

排ガス中の金属分析方法

正 誤 票

区分	位置	誤	正
本体	7.2 a)	4) カドミウム標準液 (Cd 0.1 mg/mL)	4) カドミウム標準液 (Cd 0.1 µg/mL)
	7.2 d)	2) この溶液の一定量 (例えば, 10~50 L) …。	2) この溶液の一定量 (例えば, 10~50 µL) …。
	8.4 c)	3) 空試験として試料と同量の水をとり, 同様に 1)~4)の操作を行い, …。	3) 空試験として試料と同量の水をとり, 同様に 1)~2)の操作を行い, …。
	9.1 c)	3) 1)~4)の操作を…。	3) 1)~2)の操作を…。
	10.3 d)	2) 1)の操作を行った試料の一定量 (例えば, 10~50 L) …。	2) 1)の操作を行った試料の一定量 (例えば, 10~50 µL) …。
	15.2 備考 2	検量線の作成は, …関係線を作成する。検量線は, 試料溶液測定時に作成する。	検量線の作成は, …関係線を作成する。検量線は, 試料溶液測定時に作成する。 注(*) 加熱吸収セルの場合には, 水素-アルゴンフレームに比べて 10~50 倍 (装置及び条件によって異なる。) 感度が良いので, セレン標準液 (Se 0.1 µg/mL)の量を適宜減らす。

平成 18 年 11 月 1 日作成